

各関係機関団体の長 } 殿  
各病虫害防除員

福岡県農林業総合試験場長  
(福岡県病虫害防除所)

平成29年度病虫害発生予報第10号(1月)について

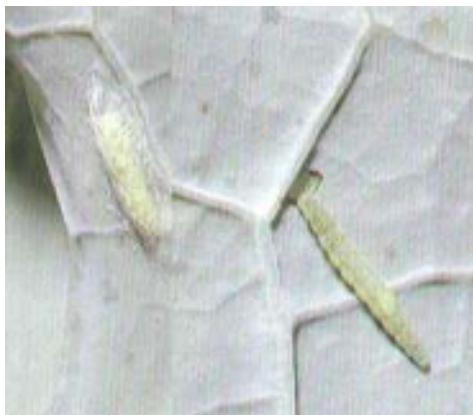
このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

キャベツのコナガの防除を徹底しましょう

例年、冬春キャベツにおけるコナガの発生量は10~11月をピークに、気温の低下とともに減少します。しかし、本年は10月から11月上旬にかけての気温が平年より高く、11月は少雨であったため、12月の発生量が例年より多い状況です。

コナガの幼虫は成育が進むとキャベツの結球部位に貫入して防除しにくくなります。また、コナガは薬剤感受性の低下が知られている害虫です。早期の防除を徹底し、防除する時は系統の異なる薬剤をローテーション散布しましょう。



コナガの蛹(左)と幼虫



コナガに食害された株

<予想される向こう1か月の天候(平成29年12月16日~平成30年1月15日)>

北からの寒気の影響で、冬型の気圧配置が強いでしょう。

このため、向こう1か月の気温は低いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり低くなる所がある見込みです。

向こう1か月の気温・降水量・日照時間(数値は予想される出現確率)

	平均気温	降水量	日照時間
九州北部地方	低 <b>50</b> 並40高10% 低い見込み	少 <b>40</b> 並 <b>40</b> 多20% 平年並か少ない	少30並 <b>40</b> 多30% ほぼ平年並の見込み

(福岡管区气象台 平成29年12月14日発表抜粋)

1月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少 やや少	少 並	並 並
冬春ナス	すすかび病	少	やや少	並
冬キャベツ	黒腐病 コナガ	少 多	やや少 やや多	少 やや多
冬レタス	菌核病	少	やや少	少

## 【野菜：冬春イチゴ】

### 1 うどんこ病

#### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病株率 0%（平年 0.44%、前年 0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、並発生の条件となっている（±）。

#### (3) 防除上の注意

ア 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

イ 罹病果や罹病葉の早期発見に努め、見つけ次第速やかに取り除く。

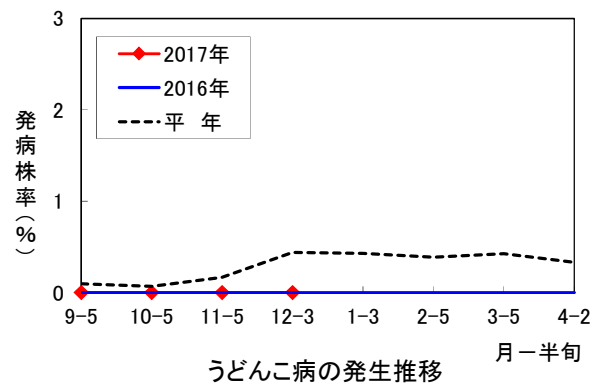
ウ 収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、早めに取り除く。

エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。

オ 古葉かき後、葉液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

カ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

キ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



### 2 ハダニ類

#### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

#### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（－～±）。

寄生株率 3.4%（平年 6.9%、前年 6.8%）

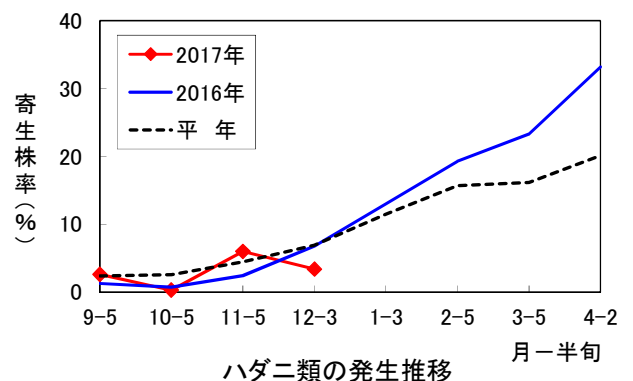
※多発しているほ場が一部のみみられる。

イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の条件となっている（－～±）。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア ハウス内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。除草した雑草や摘葉した葉はハウス内に放置せず、ビニル袋等に入れて密封し処分する。

イ 多発後は防除が困難になるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。なお、防除は摘葉後に行うと効果的である。

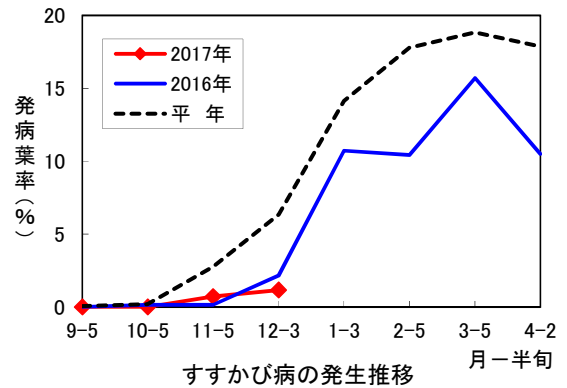


- ウ 薬剤抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、気門封鎖剤も含めて異なる系統の薬剤をローテーション散布する。また、ハダニに登録のある薬剤の多くは浸透移行性が乏しいため、必要に応じて展着剤を加用し、葉裏に薬液が十分付着するよう防除を行う。
- エ 天敵を利用する場合は、薬剤の選定に留意する。
- オ 親株についても防除を徹底する。

## 【野菜：冬春ナス】

### 1 すずかび病

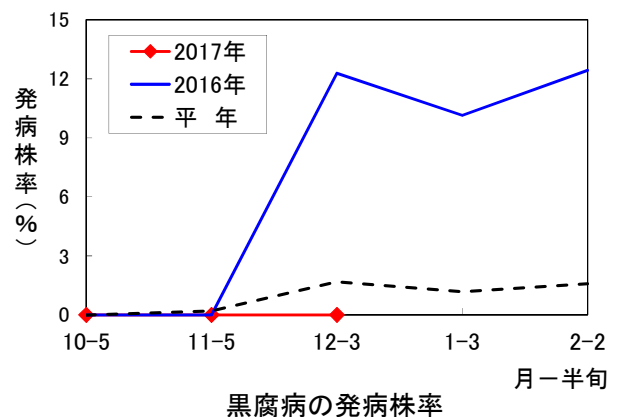
- (1) 予報の内容
  - 発生量：平年よりやや少、前年並
- (2) 予報の根拠
  - ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。
  - 発病葉率 1.2%（平年 6.3%、前年 2.1%）
  - イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の条件となっている（-〜±）。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - ア 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理に努める。
  - イ 適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。
  - ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
  - エ 病勢が進展すると防除が困難となるため、初期防除を徹底する。
  - オ 同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。
  - カ すずかび病の防除薬剤の中には天敵に悪影響を及ぼすものがあるため、天敵を利用している場合は、薬剤の選定に留意する。



## 【野菜：冬キャベツ】

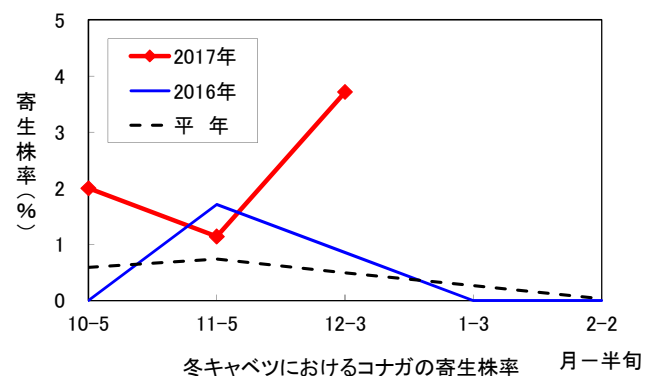
### 1 黒腐病

- (1) 予報の内容
  - 発生量：平年よりやや少・前年より少
- (2) 予報の根拠
  - ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。
  - 発病株率 0%（平年 1.7%、前年 12.3%）
  - イ 向こう1か月の気象予報では、少発生の条件となっている（-）。
- (3) 防除上注意すべき事項
  - ア 予防散布に努める。
  - イ 発病株を見つけたら、早めに除去、処分する。
  - ウ 多発ほ場では、アブラナ科以外の作物を輪作する。



### 2 コナガ

- (1) 予報の内容
  - 発生量：平年・前年よりやや多
- (2) 予報の根拠
  - ア 11月5半旬調査の結果、発生量は平年より多かった（+）。
  - 寄生株率 3.7%（平年 0.5%、前年 0.9%）
  - イ 向こう1か月の気象予報では、やや少発生の



条件となっている（－～±）。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発すると結球内部に食入し、防除が困難になるので、ほ場の発生状況に注意し、発生初期の防除に努める。
- イ 薬剤が効きやすい若齢期の幼虫を対象に薬剤防除を行う。
- ウ ジアミド系の一部の薬剤で感受性の低下が見られるので、それ以外の薬剤を用いて防除を行

【野菜：冬レタス】

1 菌核病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少・前年より少

(2) 予報の根拠

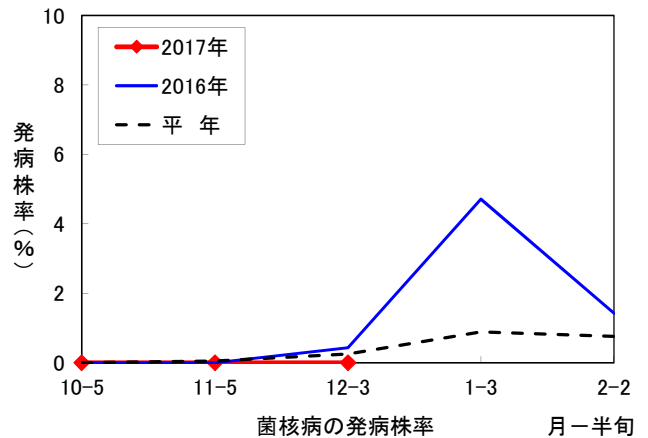
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（－）。

発病株率 0%（平年 1.1%、前年 2.8%）

イ 向こう1か月の気象予報では、少発生の条件となっている（－）。

(3) 防除上注意すべき事項

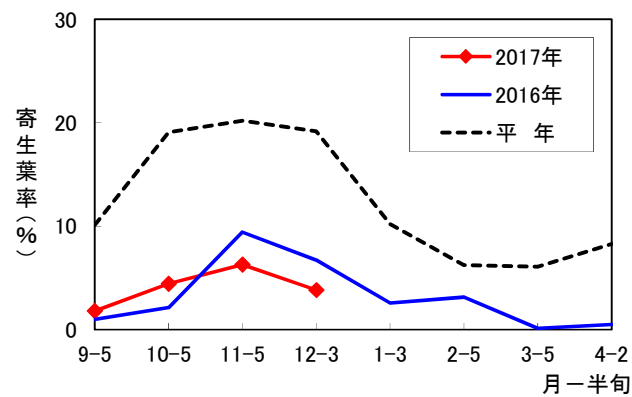
- ア 予防的に地際や葉の基部を主体に薬剤散布を行う。
- イ 発病株を見つけたら、菌核をつくらないうちに早めに除去、処分する。
- ウ 反転耕を行い、5cm以上の深さに菌核を埋没させる。



【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病果は見つけ次第除去する。</li> <li>・古葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。</li> <li>・収穫後の果梗は、放置すると感染源となりやすいので、古葉かぎ時に取り除く。</li> </ul>
冬春ナス 灰色かび病	並	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切にハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。</li> <li>・発病果、発病葉はできるだけ除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。</li> </ul>
冬キャベツ 菌核病	やや少	やや少	少	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防除適期は結球開始期である。株元に十分かかるように、丁寧に散布する。</li> <li>・発病株は早めに抜き取り処分する。</li> <li>・収穫後に反転耕を行い、5cm以上の深さに菌核を埋没させる。</li> </ul>
冬レタス 灰色かび	少	少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発病株は抜き取り処分し、直ちに薬剤散布する。</li> </ul>
腐敗病	やや少	やや少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫が遅れると突発することがあるので、適期収穫に努める。</li> </ul>

作物名 病害虫名	現況 (発生量)	1月の発生予報 (発生量)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
野菜共通 ミナミキイロ アザミウマ	少	少	並	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内外の除草を徹底し、本虫の増殖源を絶つ。</li> <li>・ハウス栽培では、施設間の移動・分散を防ぐため、0.4mm目以下の防虫ネットを天窓や出入口を含めて隙間なく張る。</li> <li>・幼虫やが寄生している下位葉は、できるだけ除去する。</li> <li>・葉裏への寄生が多いので、散布ムラがないように散布する。また、多発した場合は、約1週間後にもう一度薬剤散布を行う。</li> <li>・天敵を利用する場合は、合成ピレスロイド系、ピラゾール系などの薬剤は使用しない。</li> </ul>



冬春ナスにおけるミナミキイロアザミウマの発生推移

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

## 1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

○有効期限切れの農薬は使用せずに、産業廃棄物として処分する。

## 2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフト低減ノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

## 3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

## 4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

## 5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

## 6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

福岡県病害虫防除所ではQRコードを作成しています。  
携帯電話のQRコードリーダーでスキャンして頂くと、病害虫防除所ホームページに簡単にアクセスできますので、御利用下さい。



最新の病害虫発生状況